



## 「子供たちの笑顔」と共に 夏休み明けのスタート

先日、夏休みの作品提出日がありました。こんがり日焼けして、一回りたくましくなった子供たちが夏休みに頑張った取組（作品等）を持って登校してきました。久しぶりに会いましたが、にっこりとした笑顔と共に元気に「こんにちは！」と少しはにかんだようなあいさつをして階段を登っていきました。どの子の表情にも充実したであろう夏休みの様子を感じ、友達に会えて嬉しそうにしている様子からこれから始まる学校での生活への期待のようなものを感じました。



今年の9月は、例年と違って全校で取り組む大きな行事（運動会）のない9月になります。今までは「運動会を頑張る」などと目標を持っていた子供たちは、スタートに際して、どんな目標をたてるのでしょうか？前期の締めくくりに向けて、学習や仲間との活動の充実といった点について目標をたて、頑張ってほしいと考えています。

## 「自分で考え、自分で取り組む」姿を育む

夏休みの間に、本校6年生も参加した全国学力・学習状況調査の結果が新聞などで取りあげられ、「ICT活用校、正答率高く」「自らの考え表現 なお課題」といった見出しが目につきました。一方で、全国の子供たちのアンケートからは、『「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいる」児童ほど、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」「自分にはよいところがある」と感じている。』ことが示されました。主体的に学びに向かっている姿は、子供たちの挑戦心・自己有用感、そして幸福感等を高めているという分析結果でした。これは、言われてみれば当たり前のことのように思えます。自分で判断し、〇〇をやりたいと意欲的に活動したり学んだりすればするほど、できることは増え、それにつれて満足感もアップするのでしょうか。言葉でいうのは簡単ですが、子供たちに「主体性」をどのように育てていくとよいのでしょうか。

私は、この夏休みはオリンピックに心を奪われ、競技に臨む選手の皆さんからたくさんの感動をもらいました。中でも、大量の鼻血が出て必死に自分の柔道をやり続ける姿、腕を負傷しても今の力を精一杯出し切り、まさしく死力を尽くす姿。いくつかの種目の演技の総合点を競う団体戦で、初めに行った種目で思うような評価が得られなくても、最後の最後まで、あきらめないうで演技し続ける姿。などが、心に残りました。どの姿も、自らの熱意や自分の目標に向かい長年にわたって粘り強く練習し高めてきたものを出し切ろうとした姿だと感じました。

こんな姿が育っていくためには、自分が思っているようにうまくできなくても失敗しても、簡単にあきらめてしまわない姿に、ポジティブな声掛けを行い、僅かでも成功体験を積み重ねていけるように周りが支えていくことなのではないでしょうか。どんなことでもいいのです。自分が決めた何かを主体的に取り組める子供たちに育ってほしいと願っています。